

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
穴吹デザイン専門学校		平成3年3月29日		林田 正彦		〒732-0826 広島市南区松川町2-24 (電話) 082-263-7177																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人穴吹学園		昭和25年12月16日		穴吹 薫		〒720-0052 広島県福山市東町2-3-6 (電話) 084-931-3325																							
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																					
文化・教養		文化・教養専門課程		商品企画デザイン学科		平成29年文部科学省告示 第39号		—																					
学科の目的		製品の企画からデザイン、造形教育を通して、モノの新しい価値を提案できる人材を養成する。																											
認定年月日		平成26年3月31日																											
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																	
2年		1,700		372		1,424		0		0		0																	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																	
30人		24人		1人		5人		9人		14人																			
学期制度		■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。																					
長期休み		■学年始:4月1日～4月上旬 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月下旬～1月上旬 ■学年末:3月中旬～3月31日				卒業・進級条件		校長の行う進級、卒業の判定は、試験、平素の成績、出席日数等により行う。 認定の基準は別に定める。																					
学修支援等		■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 チューターが窓口となり本人及び保護者面談を実施する。				課外活動		■課外活動の種類 近隣のボランティア清掃ほか  ■サークル活動: 無																					
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) ㈱キンキホーム・このみやグループ・㈱平山 他 不動産・服飾リフォーム・情報処理サービス業界 等 ■就職指導内容 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。 ■卒業生数 9 人 ■就職希望者数 8 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 88.9 % ■その他 ・進学者数: 0人  (令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニバーサルデザインコーディネーター3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>リビングスタイリスト資格試験2級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>AFT色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ユニバーサルデザインコーディネーター3級	③	9	9	リビングスタイリスト資格試験2級	③	9	2	AFT色彩検定3級	③	6	4
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
ユニバーサルデザインコーディネーター3級	③	9	9																										
リビングスタイリスト資格試験2級	③	9	2																										
AFT色彩検定3級	③	6	4																										
中途退学の現状		■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者22名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者19名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや支援機会の提供などを実施。				■中退率 13.6 %																							
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 穴吹カレッジ特待生制度、穴吹カレッジ高校生デザイン大賞特待生制度、在校生・卒業生の親族入学優遇制度、高資格・検定取得者特待制度、県外出身者奨学生制度、遠方奨学生制度、西日本豪雨災害被災者支援制度、入学者特別給付金(コロナ禍支援)制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																											
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無																											

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・授業課題(演習)内容について、専門性はもちろんのこと、時代性を反映させる。
- ・演習授業を通して、実社会で必要とされる社会性を身に付けさせるため現役で実務に携わる企業の職員に直接授業を受け持ってもらおう
- ・本学科では、年2回以上、各授業担当講師(企業講師多数)を招集し、専門分野の最新状況と教育内容との微調整、情報交換を図り、その結果を課程編成委員会の議題として活用している。
- ・加えて、(常勤講師)による定例の学科会議を設け、その結果を講師会および課程編成委員会の議題として活用している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体・企業等からの意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望に基づき改善案を教務部で検討し来期カリキュラムを策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年11月1日現在

名前	所属	任期	種別
石井 誠	株式会社 GKデザイン総研広島 技術顧問	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
川上 佳代	有限会社 コンセプトワーク 代表取締役 日本グラフィックデザイナー協会 運営委員	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
影山 公一	株式会社 ピットカンパニー 代表取締役	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
柴崎 達史	株式会社 スペースコンフォート 代表取締役	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
高橋 伸幸	ナッツデザインスタジオ 代表	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
高見 洋平	株式会社講談社 月刊少年マガジン 編集長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
松岡 弘之	株式会社 トランスデザイン 代表取締役	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③
彌中 敏和	株式会社 GKデザイン総研広島 代表取締役社長 日本インダストリアルデザイナー協会 西日本ブロック長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	①
林田 正彦	穴吹デザイン専門学校 校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
尾崎 隆一	穴吹デザイン専門学校 副校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
西尾 通哲	穴吹デザイン専門学校 教務部部长	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
平田 卓也	穴吹デザイン専門学校 教務課課長	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	
田中 直美	穴吹デザイン専門学校 教務課主任	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には**、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年10月14日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員から、学生の能力をさらに高めるため「現場で起こる様々な問題への対応力を鍛えることが必要」「プロダクトを手にとってもらうためのPR材料の発信、伝え方が重要」「コロナ禍、IoT、SDGsと多様な社会環境への将来対応が必要」「発想をがらりと変えるものの見方を考えさせ、答えのない課題に取り組むことも良い」との意見が上がった。それらについて、商品企画デザイン演習科目群において課題の中に「トラップ」を仕込み学生に考えさせる、プレゼン時はモノだけでなく販売促進の方法まで視野に入れるなどの工夫をした。また、課外活動においても各種アイデアコンペ、専門分野を越えた企画へのチャレンジ、学内ショップの活動活性化など積極的な取り組みを誘発する工夫をした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門分野において実務に携わる企業との連携により、学科の育成人材像の達成に向けて、授業科目内容、指導内容、授業運営、評価について協力を要請する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

空間デザインではプロダクトと空間の設計・デザイン、実寸制作での工具使用について課題設定、指導、評価してもらう。プロダクトデザイン1ではデザイン能力の育成、狙いや使用状況の検討、アイデア提案のポイント整理、プレゼン手法について学び、プロダクトデザイン2ではそれらの更に総合的な力を身に着ける。商品デザイン1では修了制作の作品制作について学ぶ。グラフィックデザイン2では紙面の文字・画像等の要素を情報整理するための知識を得ながら、制作ノウハウを学ぶ。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
空間デザイン	プロダクトと空間の設計・デザインについて、演習課題を通して技術と知識を習得する。実寸での制作では、実際の仕組みや工具の使用法なども理解する。	ハンクラデザイン
プロダクトデザイン1	商品を開発する際に大切なデザイン能力の育成・強化。商品の狙い、使用状況の検討。独自のアイデアと提案のポイントの整理。自己のデザイン案を検討・深化させ、提案を効果的に相手に伝える為の様々な表現手法を演習を通じて学ぶ。	dise DESIGN STUDIO
プロダクトデザイン2	商品企画、設計・デザインについて、演習課題を通して自らのアイデアを発見、カタチにし、人に伝えられる総合力を演習課題を通して身につける。	HEREDIA KOMIYAMA
商品デザイン1	修了制作について、各種プロダクトのプロトタイピングや模型製作を体験しながら製品の企画からデザインまでのプロセスを学ぶ。	フジモトプロ
グラフィックデザイン2	世の中にあるグラフィックデザインの知識を得ながら、自身の制作に役立つノウハウを身に付ける。紙面に文字・画像・その他要素を情報整理し、目的を持ってレイアウトすることを学ぶ。	coto.toco.

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学校は、教職員研修規定に則り、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員を対象とした研修、管理職教職員を対象とした研修、専門分野における実務に関する研修および学生指導力向上のための研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「商品企画デザイン分野教員研修」(連携企業等: 商品企画考房)

期間: 令和3年2月16日(火) 対象: 商品企画デザイン学科授業担当教員

内容: シヤチハタ勤務時に得た幅広い業務知識・経験をもとに「商品企画開発」・「発想法」に関わるセミナーで活躍中の清水孝洋氏を講師に迎え、商品企画開発の現場で必要とされる人材について理解する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教育をエンターテイメントに楽しくなければ授業じゃない」(連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会)

期間: 令和3年2月19日(金) 対象: 教員

内容: 渋谷文武氏(株式会社インタメプロダクション代表取締役)を講師に迎え、一瞬で学生の心をつかむコツ、ディスカッションに参加したがる学生をうまく引き込むコツなどを授業にすぐに使える様々な授業スタイルを体感し学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「商品企画デザイン分野教員研修」(連携企業等: AKATSUKI PRODUCT)

期間: 令和3年10~11月を予定 対象: 商品企画デザイン学科授業担当教員

内容: 本校卒業生の濱本良祐氏より業界の動向を伺い、学生の就職やアイデア実現について助言いただく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「先生のためのメンタルヘルス実践研修」(連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション)

期間: 年度内 対象: チューター

内容: ストレスマネジメント・ハラスメント・メンタルヘルス

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ②自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する
- ③結果として、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画を立案し、PDCAサイクルを回し続ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 学外に対し、教育理念等を明文化し、公表しているか 各修業期間における教育目的・教育目標が文書化され、教育計画が文書化され提示されているか
(2)学校運営	運営会議が定期的に行われているか 人事規程が文書化されているか 決裁規程が文書化されているか 個人情報保護規程が文書化されているか
(3)教育活動	学校の年間スケジュールはあるか シラバスあるいは講義要項等が作成されているか 学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか 結果にもとづく教員面接を実施しているか 結果にもとづく授業観察を実施しているか 結果に基づく教員のレポート、改善計画書等が作成されているか 授業改善のための組織的取り組みが行われているか キャリア教育など行われているか
(4)学修成果	学生の就職に対する目標を設定したか 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか 退学率の目標を設定しているか 卒業生の進路・就職先等を公表しているか
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 課外活動に対する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	学校生活におけるリスクマネジメントとして保険に加入しているか 防災・防犯設備が整備・点検されているか 施設・設備の保守・点検が定期的に行われているか
(7)学生の受入れ募集	学校案内等には育成人材像が明示されているか 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか 学校案内等には学費・教材費等が明示されているか 入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか
(8)財務	年度予算、中期計画は策定されているか 予算は計画に従って妥当に執行されているか定期的に確認しているか 会計監査体制のルールが明確化されているか 会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか
(9)法令等の遵守	自己点検・評価を適正に実施運用するためのルールが文書化されているか 自己点検・評価報告書があるか 自己点検・評価報告書が公表されているか
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

オンライン授業下で学生同士がLINE等で繋がり支援しあえたり、教え合ったりしているという保護者の委員からのコメントがあった。学生同士で教え合える環境を促進できるよう意識するに至った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岡野 康明	段原地区社会福祉協議会 会長 松川町町内会 会長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	地域
吉村 薫	広島県立広島工業高等学校 校長	令和3年11月1日～令和4年10月31日(1年)	学校
川上 佳代	有限会社 コンセプトワーク 代表取締役 日本グラフィックデザイナー協会 運営委員	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	企業
山岡 修	同窓会 会長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	卒業生
山本 明美	保護者会 会長	在任期間中	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
URL:web.anabukih.ac.jp/info/information/  
公表時期:令和2年12月4日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

継続的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する。
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するよう努める。
- ・情報の提供に際してはインターネットでの提供を基本とする。
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する。
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史 学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画 経営方針
(2)各学科等の教育	入学者に関する受入れの方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 カリキュラム、時間割、年間の授業計画 進級・卒業の要件 資格取得、検定試験合格等の実績 卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	教職員数(職名別) 教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況 実習・実技等の取組状況 就学支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況 課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動)
(6)学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い 活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果 評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: web.anabukih.ac.jp/info/information/

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程商品企画デザイン学科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			社会人基礎	クラスの学習指導・生活指導・進路指導などを包括的に行う。授業・行事に関わる情報伝達・話し合い等も行う。進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける。	1 通	90		○			○		○			
2	○			デザイン検定	リビングスタイリスト検定2級、UDコーディネータ3級資格試験に向けての対策講義。	1 前	30		○			○				○	
3	○			製品計画	生活の中で何気なく使っている“モノ”。それらが創り出された背景を知ること、プロダクトのデザインプロセスを学ぶ。	1 通	48		○			○				○	
4	○			家具デザイン1	家具をはじめとした手加工を主とする製品のデザイン、製作方法を学ぶ。テーマに対する調査からデザイン、製作及びプレゼンテーションまでのプロセスを経験する。	1 通	96		○			○				○	
5	○			ユニバーサルデザイン演習	ユニバーサルデザインの概念を正しく理解し、UDを実践できる基礎的知識と技術を習得する。UD概念の導入プロセスの基礎的事項の習得。	1 後	18			○		○			○		
6	○			基礎デザイン	抽象表現を中心とした造形表現を通して、空間や立体物に対する感性を養う。身の回りのデザインされたものを観察するとき、自らデザインを考へるときに造形的な視点を持つことができるよう制作活動から学ぶ。	1 前	30			○		○			○		
7	○			モデリング	様々な素材に触れ、その適切な加工方法を知る。抽象的イメージを立体に起こすことで商品企画に必要な造形力を養う。	1 通	52			○		○			○		
8	○			商品デザイン1	修了制作の作品制作。	1 後	44			○		○				○	○
9	○			商品デザインゼミ1	ショップに関する実務や商品の制作、店舗の改善を行う。また、コンペや商品及びイベントの提案など、各自で課題を計画し実行する。	1 通	52			○		○			○		



10	○		空間デザイン	プロダクトと空間の設計・デザインについて、演習課題を通して技術と知識を習得する。 前期・後期共、課題ごとにそれぞれの分野のプロを招き、プレゼンテーションを行う。外部との連携により学外のリアルな状況を把握し、より実践的に取り組むことが可能となる。実寸での制作の場合、実際の仕組みや工具の使用法なども理解する。	1通	52				○	○	○	○	○
11	○		プロダクトデザイン1	商品を開発する際に大切な、デザイン能力の育成・強化。商品の狙い、使用状況の検討。独自のアイデアと提案のポイントの整理。自己のデザイン案を検討・深化させたり、提案を効果的に相手に伝える為の様々な表現手法を演習を通じて学ぶ。創る事の楽しさや、自分でも気づかなかった新たな能力を見つける。身体と調和した美しいカタチの発見。	1通	96				○	○		○	○
12	○		CAD	JWCADの基本操作及び製図の基礎を学ぶ。デジタルグラフィックソフトの基本的な使い方学ぶ。	1前	60				○	○		○	
13	○		グラフィックデザイン1	世の中にあるグラフィックデザインの知識を得ながら、自身の制作に役立つノウハウを身に付ける。紙面に文字・画像・その他要素を情報整理し、目的を持ってレイアウトすることを学ぶ。	1通	44				○	○		○	
14	○		修了制作	1年間の集大成として商品として成立するプロダクトを作成し、発表を行う。	1後	138				○	○	○		
15	○		業界研究	担任クラスの学習指導・生活指導・進路指導などを包括的に行う。授業・行事に関わる情報の伝達・話し合い等も行う。	2通	60				○	○	○		
16	○		空間表現応用	身の回りにあるたぐさの色は、日常・ビジネス面においても密接な関係にあり、特にデザインの観点からは切っても切り離せない分野である。全講義を通して色に関する性質・本質を学ぶ。単にデザインの世界にだけ当てはまる内容ではなく普段の生活にも関わる色を学ぶことでより豊かな生活を目指し、感性を養う。	2通	48				○	○		○	
17	○		グラフィックデザイン2	世の中にあるグラフィックデザインの知識を得ながら、自身の制作に役立つノウハウを身に付ける。紙面に文字・画像・その他要素を情報整理し、目的を持ってレイアウトすることを学ぶ。	2通	104				○	○		○	○
18	○		パブリックデザイン	公共（パブリック）の概念と商品の企画とデザインを考える。広義での公共＝不特定多数に対する場所や空間、行為に根差したデザインについて、ワークショップ形式でその機能、効果、評価のプロセスを習得し、またそれらを客観的に判断できる視点を養う。	2前	30				○	○	○		
19	○		プロダクトデザイン2	商品企画、設計・デザインについて、演習課題を通して自らのアイデアを発見、カタチにし、人に伝えられる総合力を演習課題を通して身につける。	2通	104				○	○		○	○

20	○		商品デザイン 2	卒業制作の作品制作。	2 後	44			○	○	○	○		
21	○		商品デザイン ゼミ2	ショップに関する実務や商品の制作、店舗の改善を行う。また、コンペや商品及びイベントの提案など、各自で課題を計画し実行する。	2 通	52			○	○	○			
22	○		デザイン演習	様々な素材に触れ、その適切な加工方法を知る。抽象的イメージを立体に起こすことで商品企画に必要な造形力を養う。	2 通	52			○	○	○			
23	○		卒業制作	2年間の集大成として商品として成立するプロダクトを制作し、発表を行う。	2 後	164			○	○	○			
24		○	アクセサリ デザイン	ジュエリーの制作工程を学ぶ。デザインから実物になるまでの一連の流れを理解する。販売を視野に入れた価格設定を考えることで、流通を知る。	2 通	96			○	○		○		
25		○	3D-CAD	Fusion360によるモデリング、図面制作及び3Dプリンターによるモデル制作などを通して、3次元CADによる設計、デザインについて学習する。	2 通	96			○	○		○		
26		○	家具デザイン 2	使う人のことはもちろん、それをつくるための技術、素材などからテーマを設定し、家具のデザイン、制作を行う。木材を中心に、家具を製作する上で必要な材料や加工方法を学ぶ。	2 通	96			○	○		○		
合計					26科目	1,796単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目1,508単位時間、選択必修科目192単位時間を修得する。選択必修科目については、専攻ごとに定められた科目の内から選択する（その選択肢として上記選択必修科目が設けてある）ただし、専攻にかかわらず企業等連携科目を必ず履修するものとする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。